

2020年3月27日

タイのビジネスチャンスはどう掴むか

- ボンゴット・アヌロート前タイ投資委員会（BOI）副長官に聞く -

バンコク事務所長 久保田 資子

1. はじめに

タイは、製造業に加え、近年ではサービス、流通といった非製造業など多くの日系企業が進出しており、その数はジェトロバンコク事務所の調査によると5,444社（2017年10月現在）に及び、今なお増加している。当事務所にも、タイへの販路拡大やタイ企業との取引を検討している企業から多くの相談が寄せられている。

日系企業がタイで事業展開していくための成功のポイントはどこにあるのか。タイへの投資促進策を管轄し、外国企業からの投資相談に応じる政府機関である「タイ投資委員会（BOI）」の副長官を昨年9月まで務め、今も特別顧問に就いているボンゴット・アヌロート氏（写真1）にお話を伺った。



（写真1）ボンゴット前副長官
2020.2 BOI 本部にて、筆者撮影

2. ボンゴット・アヌロート前 BOI 副長官インタビュー

（1）日系企業の進出動向とタイ政府が日系企業に期待する分野は何か。

「これまで、日系企業には製造業、特に自動車、家電、電子部品の分野でタイ経済に大変貢献いただけてきた。今後は、電気自動車（EV）、オートメーション機械、医療機器、環境分野といったタイ政府がターゲットとする産業に積極的に投資していただきたい。

一方で、タイは農業国であり、IoT 技術などを活用して生産性を高める事業への取組みにも期待している。併せて、農業分野の近代的マネジメントやソリューションの提供が出来る企業にも是非進出してもらいたい。」

（2）福岡県企業にとって、どの分野・業種にチャンスがあるか。

「環境分野の新技术及びノウハウ提供に商機がある。ただし、太陽光発電などの代替エネルギー事業は、既に多くの投資案件が実施済であるので、それ以外の排水処理や廃棄物処理に関するシステムや新技术の導入などに将来性が見込まれると思う。ネックは、当該事業について地域住民の理解が得られるかどうかであり、思うように進まないケースも多い。住民の理解を得て、福

岡山企業の経験やノウハウを活かすことができれば、十分チャンスはある。

また、福岡県は、北九州市がものづくりで有名であるように、製造業の分野でもチャンスがある。特にFA（工場自動化）をはじめ、「自動化」に関連する事業の展開に期待している。」

(3) 日系企業間、タイ企業との競争が激しくなる中、タイでのビジネスを成功させるポイントは何か。

「タイでビジネスを行うのであれば、まず日本人がタイの文化や、タイ人の気質、働き方、仕事に対する考え方を理解することが大事。その上で、日本式マネジメントをいかに上手く融合させていくかがポイントだと考える。

また、「タイ人社員を信頼して、任せること」も重要。結局のところ、企業が成功するかどうかは「人」である。社員にチャンスを与えて、やる気を喚起し、優秀なタイ人を責任あるポストに登用する等、タイ人社員の育成に注力する組織は、間違いなく成功すると思う。」

(4) 多くの日系企業の進出を見てこられたと思うが、成功する企業の特徴とは何か。

「タイ進出は企業にとっても挑戦であり、やはり、しっかりした経営理念を持った企業は、外部環境の変化にも柔軟に対応でき、成功していると思う。

そして、タイでのビジネスのルールをよく調べ、遵守すること。また、地域社会の一員としてタイ社会へ何らかの形で地域に貢献することで、両者がWin-Winの関係になっている企業はうまくいっている。」

3. インタビューを終えて

日系企業のタイでのビジネスに関して、具体的事例も出しながら、大変丁寧に説明をしてくださったボンゴット前副長官。長年にわたり、日系企業のタイ進出に携わってこられた同氏のお話は、まさにタイでのビジネスを成功させる上で非常に示唆に富んだものだと感じた。今、現にタイでビジネスをされている方にとっては、響くものが沢山あるのではないだろうか。

実は、ボンゴット氏は、九州大学に留学し、学士及び修士号を取得された「タイ福岡OB会」のメンバーである。当事務所は、ボンゴット氏のように、タイ政府や大学、日系企業で勤務している方々など、福岡県ゆかりのタイ人によるOB会、そして、「福岡県」というキーワードで繋がっている県人会というネットワークを有している。これは、タイに事務所がある福岡県だからこその強みだと思う。タイでのビジネスを検討されている企業の皆様、あるいは、ビジネス以外でもタイに関心のある皆様におかれては、ぜひ、こうした人的な繋がりを含め、当事務所をご活用いただきたい。